

定型のあるなしに関わらず、豊かな感受性には無限の奥行きがあり、そこで新たな命の営みさえ始まるような気がします。詩や俳句、短歌あらゆる詩形の作品を読ませていただくと、それぞれに良い濃度があるように感じます。良い濃度に浸った言葉はとても自由で美しいです。今回も言葉が自由に泳いでいる作品をたくさん読ませていただきました。

### 数列の朽ちれば麒麟草まわる

花澤 希海 千葉県

→命はカオスの中に美しさがあると思うが、命を辿り続ければ秩序から生まれている。

「数列」とは命の本質の比喩ではないだろうか。

麒麟草が朽ちれば数列の中にもどる。数列が朽ちても（命が尽きても）麒麟草はそこに在り、ゆっくりとまわる。「麒麟草揺れる」ではない表現が、読者に大きな世界を感じさせる。筆者は輪廻の世界を思い描いた。

### 真っ白な部屋がいとおしすぎて

ショッキングピンクの

ソファを置いた

広田 土 大阪府

→愛し方にはいろいろな方法があるが、作者の愛は過剰で暴力的であり、破壊の道を猛スピードで進む。「いとおしすぎて」を平仮名にしているのが危うさを感じてとてもいい。

また、ソファも真っ赤やスカイブルー、蛍光イエローなどではだめで、「ショッキングピンク」という人工的で性を連想させる色が白く清浄な部屋に置かれ、病んだ空間にしてしまった。しかしそれが作者の愛し方なのだ。

### 死んでも春生きても春で春るるる

鎌倉まくら 宮城県

→花澤希海の作品と似たものを感じた。有から無、無から有とつながっていく様をそれぞれの表現で紡いだ。

十七文字のなかに三度繰り返される「春」が命の呼吸や始まりを思わせる。

「春」、「るるる」の柔らかいリフレインは生と死の境界線を取り払い命そのものを包む。

### この風は季語へと変わる 恋人が

ジャンプしようと言い出すことで

松下 誠一 東京都

→「風」が「季語」へ変わる理由が恋人のジャンプ。初々しく始まったばかりの関係とわかる。強い風だろうか、恋人が「この風をジャンプしよう」等と言ったのだろう。この瞬間、

二人の距離はさらに縮まった。

他の投稿作品で

**泣かないで ちょっと歩こうあとちょっと ジュンク堂にはトイレがあるよ**

という、恋人らしき人物が泣き止むまでの暇を潰すために何とかジュンク堂へ誘おうとする作品もあるが、表現方法だけでなく作者の他者への距離感そのものが詩的で良い。大切にしていきたい。

**乙女の髪を乾かし方を知った**

**修学旅行**

**風船 東京都**

→苦いあこがれ。いつも艶々の柔らかい髪の毛をなびかせるあの子は、どうしてあんなに綺麗なのだろうかという謎がついに明かされた。修学旅行という、いつもは見られないプライベートな時間まで共有する非日常で垣間見てしまったのだ。

この作品はあえて言葉少なにすることで、作者の感情の揺れが伝わってくる。美しく乾かそうと工夫する乙女の姿がストップモーションのごとく鮮やかに思い起こされる。

乙女であるあの子と、乾くことだけを考えていたであろう乙女ではなかった自分を知ってしまった苦さ。

**ありがとうありがとう**

**言いすぎて迷う君の**

**悲しいやさしさ**

**茶和鈴 東京都**

→言葉は使いすぎると意志が薄まるのに、余白を埋めるために安売りしてしまう。「ごめん」は言いすぎてはだめとよく聞くが、「ありがとう」もだめだった。言いすぎて何に感謝をしたらいいか、自分の感情の核がわからなくなってしまった「君」。

悲しいやさしさではなく、たぶん本当は「悲しいよわさ」なのではないだろうか。そう言い切れない作者にも悲しいやさしさ、よわさがある。

**このままだと後悔すると**

**分かっているのだが**

**なんならもうし始めてるのだが**

**佐々木 みつる 東京都**

→本当は序盤からじわじわと感じていたが止める勇気がなく、結局来るところまで来てしまっただろうともなくなる。後悔とはそういうもの。

何をしているのかは分からないが、無表情で内心焦りまくっているのがわかる。

語尾の繰り返す「だが」が妙な冷静さを醸し出していて可笑しい。「なんなら」が「どうか」とか「しかも」とかではこのシュールさは出ない。

**旅人の鞆に生かされてる人の  
煤けた肌と煤けた財布**

**豊富 瑞歩 茨城県**

→生かされているのは「鞆」ではなく「人」。旅をし続けているうちに鞆にも命が宿り、いつの間にか旅人よりも力を持ってしまったのだろうか。

日焼けを「煤けた」という描写にしたのは、もう旅人の意志では止められない旅となってしまったのだろう。焼けてぼろぼろになった肌を晒し、足を引きずりながら歩く旅人は「生かされて」おり、死ぬこともできない。もしかしたら、人に憑りついて旅をし続ける鞆なのかもしれない。

**ラフマニノフの  
鐘を聞きながら、  
窓ふきする午後に  
あなたを見ようとした**

**水越 晴子 三重県**

→ラフマニノフの「鐘」は、2010年にバンクーバーオリンピックで浅田真央選手が使用した楽曲である。重苦しい旋律から始まるこの曲を自分で流したのか、たまたま流れていたのか。なぜこの曲なのか。読点の場所も意味深で、「…鐘を聞きながら窓ふきする午後に、」でないのはなぜなのか。「あなた」との関係は？

背景が一切わからないまま読者の頭にはラフマニノフの「鐘」が流れる。不穏な雰囲気なのか、作者が見ようとした「あなた」とは姿だけではないのだろう。底の底まで深い「あなた」のすべてを見つくさんとしているかのようだ。